

平成24年度 第4回 市民と市長の対話集会 市長と語りう！ほっとミーティング

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成24年（2012年）5月21日（月）
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 土屋公民館 集会室
- 3 テーマ 土屋地区のまちづくり
- 4 出席者 参加者17名 傍聴者16名



土屋公民館での集会の様子

5 市長あいさつ

皆様、こんばんは。今日はお忙しい中、対話集会にお越しいただき改めて御礼申し上げます。本当にありがとうございます。

現在、市内を地区自治会連合会単位で回り、各地域で地域の皆様のお声を聞かせていただき、市政に反映できるものについては、ぜひ反映させていこうという趣旨のもと、対話集会を開催させていただいています。

昨年3月11日、東日本大震災がありました。日本全国、行政の在り方や市民の皆様の安心安全への対応は根本的に変わってきたと思います。私も昨年の就任以来、市民の皆様の命と財産を守るための防災対策をしっかりと果たすべく施策を進め、今年度も津波対策を中心とした防災対策を進めてまいります。昨年度はこの対話集会においても、防災対策をテーマに4回、花水、金目、中原、四之宮地区に伺いました。

今年度の対話集会は地域に伺い、地域の皆様とその地域のお話をさせていただき、市政への反映を考えていきたいと思えます。私は行政職員として22年間働きました。公民館にも勤め、地域の特性を活かしたまちづくりが必要であると考えてきました。公民館を中心として、地域が持つ人材、歴史を活かし、地域の課題を地域の皆様が捉え、解決できるような仕組みづくりができればありがたいと思えます。地域の皆様の取り組みに感謝を申し上げますとともに、市民の皆様が主役であるまちづくりを一緒に進めたいと思えます。

平塚市はおかげ様で、この4月1日に市政80周年を迎えることができました。これは市民の皆様、先輩、先達の方々がこの平塚市をつくりあげてきていただいたおかげですが、平塚市は90年、100年と続くまちです。そのために、元気で住み良く、安心安全なまちをつくりたいと思えます。

今日は御意見を伺い、この場でお答えできないこともあるかと思えます。その時には、担当から具体的な回答をさせていただきます。どうぞ、忌憚のない御意見をよろしく願います。

6 対話集会の内容

① 人口減少、少子高齢化対策について

【参加者】

土屋地区において、人口の減少や少子高齢化は大きな課題です。問題は不便な交通や市街化調整区域が多いことだと思います。土屋地区の人口の減少や少子高齢化への対策について聞きたい。

【市長】

土屋地区の人口の減少や少子高齢化は課題です。対策には住みやすい環境をつくる必要があります。現在、平塚市の東側地域では、道路インフラが整備されています。新聞にも取り上げられましたが、圏央道の相模縦貫道が2014年に開通すると、首都圏を通らずに流通をまかなうことができ、人や物の動きが変わります。また、新東名高速道路もでき、交通の便が非常に良くなります。

急に、土屋地区の市街化調整区域を市街化区域にすることは難しいことです。そこで、平塚市の東西を強く結び付ける幹線道路の整備、強化による土屋地区への人の集まり、まちの広がりを図り、整備、強化された幹線道路の周りの土地を利用した市街化を計画することが人口の減少や少子高齢化対策への一番の早道であると考えます。この取り組みはしっかりと強めていく必要があります。

この地域の具体的な取り組みでは、幹道15号の改修を県と連動して進めたいと考えています。平塚市内だけでなく、中井町、秦野市と協調し、道路をつなげ、交通量を増やし、利便性を高める取り組みをさせていただいています。

平成25年度から、めぐみが丘の地域に住む中学生は、原則、土沢中学校に通うことになりました。幹道15号は通学路となるため、通学路の安全、防犯対策のために、歩道や街路灯の整備を教育委員会と一体となり進めています。

【参加者】

先日、幹道15号の整備についての説明会が土屋公民館でありました。説明を聞き、何年かかるかわからない事業だと思いました。

平成25年度から、めぐみが丘の地域の中学生が土沢中学校に通うことが決まった今、早急に行わなければならないことは通学路の歩道の整備です。安全のために、片側だけでも歩道を整備してほしいと要望しましたが、片側だけ歩道を整備することはできないと言われました。杓子定規に考えず、片側だけでも歩道を整備するような意気込みがなければ、地域の住民の理解は得られませ

ん。

他にも、道路拡幅、交差点整備が必要な場所は多くあります。要望から実現までには30年を要した場所もあります。早急な対応をお願いします。

【市長】

御意見いただいた幹道15号の歩道の整備については、幹道15号の湘南丘陵幹線への対応を考え直す中で取り組んでいきたいと考えます。土屋、吉沢地区の重要な道路ですので、地域の皆様から課題を伺い、改善を図り、早く考えていきたいと思えます。

地域が抱える道路、交差点の問題は重々承知しています。私も議員の頃に、行政に対する道路、交差点に係る要望を行ってきました。信号についても、年間に市内で設置されるのは2、3か所程度です。要望を受け、早急に対応できないことは本当に申し訳ありません。地域の声、住民の総意として、粘り強く行政に声をあげていただくことが実現につながりますのでお願いいたします。行政は担当課を含め、真摯に地域の声を聞く体制づくりをさせていただきます。

【参加者】

以前、平塚ばらの丘の構想があったと思います。議会でも承認された事業であったと認識しています。しかし、構想はなくなりました。なくなったことは同様に議会を通過したのでしょうか。

【市長】

平塚ばらの丘ハイテクパークという構想がありました。議会への説明はあったと思いますが、議決事項でなく、クラスター開発（都市計画などで、個々の建物・道路・空き地などを相互に関連させて一つの集合体としてとらえ、配置すること）として神奈川大学、県農業技術センターなどはできましたが、他のクラスター開発が進みませんでした。

② 自然環境の保護について

【参加者】

土屋地区の素晴らしい自然は平塚市の財産です。その大切な自然である山林が荒れ放題になっている場所もあります。自然環境の適切な保護や鳥獣被害対策について聞きたい。

【市長】

土屋地区を含め、平塚市の自然を守っていくことはとても大切なことです。土屋地区の皆様には自然環境の保護に大変御協力いただき感謝しています。御意見のとおり、山林を放置しておくことは、決して適切な自然環境の保護ではありません。環境部においても、適切な自然環境の保護を進めさせていただきます。

鳥獣被害について、今年度は農協と協働して被害対策費への補助を出します。経済部農水産課においても、対策を着々と進めさせていただいています。

自然とともに暮らしていただきながらも、人口が増えるための住みやすい環境づくりは必要です。しかし、乱開発により自然を壊してはいけません。難しいことですが、自然環境の適切な保護と開発のバランスを取ることも行政の役目です。

【参加者】

鳥獣被害について、昨年9月の定例会報告の中、鳥獣被害を受けた農家の戸別訪問を行い、被害額を調査して予算化することでした。現在は戸別訪問を行っていますか。

【市長】

鳥獣被害の対策に係る予算については、経済部にて被害を確認し、予算を取っています。戸別訪問の現在の実施状況については、改めて確認をさせていただきます御報告させていただきます。

担当課回答（集会后、次のおり担当課に確認をしました。）

平成23年10月11日から17日にかけて、市内10地区の生産組合長を、また平成23年10月24日及び25日に、湘南農業協同組合への被害報告が多い地区の12軒を戸別訪問し、農作物への鳥獣被害についての聞き取り調査を行いました。この調査結果をもとに、平成24年度は農作物鳥獣被害対策事業としてイノシシ捕獲檻の購入、新規の取り組みとして有害鳥獣防除用資材の購入費用に対する補助金制度の創設やイノシシなどの隠れ場所をなくすための環境整備事業（草刈り）などを実施します。

今後も農業関係団体と連携し、被害状況によっては再度聞き取り調査を行うなどの有害鳥獣被害対策に取り組んでまいります。

(事務担当は農水産課農政・営農担当)

【参加者】

土屋里地里山再生グループで環境活動をしています。先日、平成23年度の市民提案型協働事業を報告させていただきました。平成24年度についても継続して行うことに決まりました。

環境活動に限らず、市民提案型の協働事業は様々な活動団体が手を挙げ、活躍しています。しかし、行政提案型の協働事業は市民提案型に比べて活発でないように思えます。そこで、市民提案型の協働事業はもちろんですが、行政提案型の協働事業も自治会と組んで行えば、様々な取り組みを行うことができると思います。

担当課回答 (集会後、次のとおり担当課に確認をしました。)

協働事業は、行政だけで対応が困難な社会的課題などに、市民活動団体と行政が連携することにより効果的なサービスを提供していくことを目的としています。

市民活動団体だけでなく、自治会を始めとする地域団体が協働事業のパートナーとなり、他地域に波及するような先駆性のある活動・事業であれば有効と考えています。

行政からの提案も増えるよう職員へ働きかけるとともに、地域団体からの提案を協働事業に結びつける方策を検討し、市民活動推進委員会での意見も伺いながら取り組んでいきたいと考えています。

(事務担当は協働推進課市民協働担当)

③ 教育、幼稚園について

【参加者】

落合市長が就任し、小学校6年生までの医療費の無料化や昨年は開催が危ぶまれた七夕まつりの開催をしていただき、子どもを持つ親としては大変ありがたいと思っています。

現在、土屋幼稚園に子どもを通わせています。とても素晴らしい幼稚園で、お母さん方の中には2人目、3人目と土屋幼稚園に通わせたいという声もあります。園児の約8割が他の地域から通っている子どもですが、今年4月から旧小学校跡地での駐車場利用が制限されました。市から連絡をいただいたのが直前だったため戸惑い、不信感を持ちました。今年度中の駐車場利用はできるが、来年度は白紙であると言われていました。年少組の親は来年度のことを大変心配しています。

【参加者】

駐車場利用のことに、旧小学校跡地であるスポーツ広場の名称を多目的広場と変えさせていただきました。理由は、ゲートボール、グラウンドボールなどを行うことはありますが、今後も幼稚園の駐車場を確保したく多目的広場としました。教育委員会は駐車場としては認めないですが、我々自治会は幼稚園を守りたいと考え、駐車場としても使い続けていただきたいと思います。

先日、土屋地区自治会連絡協議会としても、来年度以降の多目的広場としての継続利用を市長にお願いしたところです。

多目的広場の地権者の一人は横浜に住む高齢者です。地権者は売れるものなら売って処分したいと考えていますが、多目的広場は子どもの大切な遊び場でもあります。できるだけ現状を維持していただきたいと思います。

【市長】

旧小学校跡地は地権者の御好意で市が使わせていただけてきました。更新にあたり、行政は更新していただけることが当たり前であるかのように対応を行ってまいりました。この点については、改めてお詫びを申し上げます。

今年度は多目的広場として使っていただくことになりました。教育委員会からは、利用目的が駐車場ではないことは回答させていただいていると思います。今後は、使い方について、地域の皆様がどのように考えているか、何を必要としているかを考える必要があります。門前払いのように、来年度からは使えませんということではありません。土屋地区の皆様と地域での使い方、土屋幼稚園での使い方の御意見を伺いながら検討させていただきたいというのが

現状ですので、御理解いただくようお願いいたします。

子どもたちの遊び場も、相対的に再度考えていきます。地域には遊ぶ場所、スペースがどれくらい必要なのかということも一緒に考えたいと思います。

公立幼稚園5園の園長先生との対話をし、公立幼稚園の使命、取り組み、保護者からの好評なお声についても伺いました。今後の幼稚園のあり方についてお話をさせていただくと、現在平塚市全体で保育機能の充実を求める声は多いです。新しい保育園を開園していただき、昨年4月、待機児童はいなくなりましたが、今年4月には20名から30名の待機児童がいます。今後、ますます保育機能を高める必要があります。幼稚園においても、延長保育等の対応が必要になります。国では、幼稚園機能と保育園機能をあわせ持つ、総合こども園の計画を進めていく考えを持っています。平塚市も幼稚園と保育園がある港地区をモデルにし、幼保一元化の取り組みを行おうと考えています。土屋地区においても、今後どのような形で行うかはわかりませんが、同様に保育機能を高める取り組みを行いたいと考えます。

【参加者】

幼稚園と保育園の一体化による保育料の値上げが心配です。例えば、秦野市では幼稚園の保育料は月額8,000円、平塚市は月額12,000円です。親が住む場所を決める時に保育料は重要で、人口の減少にも影響すると思います。土屋幼稚園では今時珍しく、子どもが4人から5人いる家庭もあります。そのような家庭を金銭面でも守っていただきたいです。

【市長】

将来の平塚市を支えてもらう子どものために、どのように予算をかけるかということは一生懸命考えます。保育機能を高める取り組みにおいても、市民の皆様の負担が増えるようなことは避けなければいけません。

医療費の無料化を3年生から6年生までに引き上げました。入院に関しては中学生まで無料です。無料化の引き上げには約1億8,000万円の費用がかかります。しかし、「子育てするなら平塚で」と言っていただくため、思い切って議会に提案し、承認していただきました。本来、保育料や医療費については国が考え、市町村間で競い合うようなことは避けるべきです。しかし、平塚市での子育てにはできるだけ負担がかからず、高いレベルでの子育てができるようにしたいと考え、実行しました。

【参加者】

以前、土沢中学校のバレー部が県で優勝し、関東でも勝ち進み全国大会に出

場しました。

全国大会でも予選を勝ち抜き、決勝トーナメントに進出しました。土沢中学校では他の部活動がなく、バレー部に運動神経の良い生徒が集った結果でした。しかし、現在は希望する部活動によって、他の学区の中学校に通えます。土屋地区で少年野球の微笑ましい姿を見ても、他の中学校に行ってしまうと思うと悲しいです。人気がある浜岳中学校では、他の学区からの生徒で1クラス成立します。今日もここに来るまで、土沢中学校ではない学校のジャージを着た中学生を見かけました。防災対策においても、災害時に地域で一番活躍するのは中学生です。日中、高校生、社会人は他の地域にいます。救助などに活躍するのは中学生です。このような理由からも、この制度を見直す必要があると思います。

神奈川大学も心配です。厚木市にあった青山学院大学は学生が集まらず移転しました。駅伝で優秀だった神奈川大学も最近はや選落ちもします。市とともに育ち、小、中学校と連携している神奈川大学への支援もお願いします。

【市長】

地域の子どもは地域で育ててもらうことが一番良いと考えます。平成25年度から、めぐみが丘の地域に住む中学生は土沢中学校に通うことになりました。御意見のとおり、部活動を理由に他の学区の中学校に通える制度も再度考える必要があります。現在、学校では部活動の指導を地域の指導者にさせていただいているところもありますが、部活動の試合等には顧問の引率が必要になることがあります。そこで、教育長、教育委員会には先生方が部活動への関わりを持てるような学校での環境づくりを検討するよう話しています。

そして、地域の学校には魅力を持たす必要があります。例えば、土沢中学校の英語教育はすごい、というような魅力が必要です。この地域には神奈川大学があります。神奈川大学と協働して地域の子どもを育ててもらう取り組みをお願いします、学長には快く了解していただきました。学生による小、中学校での取り組みをしていただいています。土屋小学校、土沢中学校に魅力を持たす取り組みは教育委員会を中心に行っていきます。

神奈川大学については、学長から横浜市六角橋にある学校とは違い、この地域にあるキャンパスには別の意義があると言っていただいています。各教授からも、より一層の連携、協力を深め、様々なまちづくり、地域づくりに関わりたいとのお話もいただいています、ありがたく思っています。

④ 防災対策について

【参加者】

昨年の台風15号の時、農道には大きな被害がありました。地域の住民は農道を日常の生活道路として使用します。被害のことを役所に連絡しましたが、農道より上の斜面については行政の対応ができないとのことでした。地域住民の生活道路である農道に対しても防災対策を考えてください。

【市長】

市道認定がない道へは多くの費用をかけられないことはあります。経済部農水産課には、農道での危険な場所についての御相談もしていただくようお願いいたします。

さらに、土屋地区には急傾斜地の問題もあります。地域の皆様の安心安全を考えると、今後、そのような場所にも手を加える必要が出てきています。これは災害対応の担当課においても対策を考えていきたいと思っております。

【参加者】

福島第一原発事故が起き、土屋小学校の土が放射能汚染を理由に捨てられました。小学校で菊づくりやアサガオの観察をするための土も捨てられました。どのような放射能汚染の基準で、どのように土を処理したのか聞きたい。また、菊づくりやアサガオの観察を行うため、どのように代替りの土の対応をするのか聞きたい。

【市長】

基本的に汚染が高い土は埋め戻します。行政では必要に応じて、幼稚園、保育園、小学校、中学校にて放射能汚染を測定しています。御質問いただいた土の対応については、教育委員会に確認して御報告いたします。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認をしました。）

福島第一原発事故を受け、教育委員会では市立幼稚園、小・中学校48校（園）のグラウンドをはじめ遊具の下、砂場、側溝、落ち葉集積所等の放射線量の測定を平成23年11月から平成24年2月にかけて実施いたしました。結果は、48校（園）において本市の除去作業等の判断基準としている毎時0.23マイクロシーベルを超える放射線量が測定された場所はありませんでした。

しかし、県内近隣市の一部小・中学校の腐葉土置き場の落ち葉から国の暫定基準値を超える放射性セシウムが検出されたこともあり、園児・児童・生徒の安全を第一に考え、平成23年度については、教育長通知により腐葉土の使用を中止いたしました。

このことから、土屋小学校では菊づくりに使用する腐葉土のみを廃棄しました。なお、菊づくり用の土は、毎年、前年に使用していた土をビニールシートに包み保存しているものを利用し、1年生のアサガオの栽培用の土は毎年購入しています。

また、今年の腐葉土については、今までの腐葉土置き場以外の新たな場所で落ち葉を集積し、再度、放射線量の測定を実施して使用の有無を決定したいと考えています。

(事務担当は教育総務課教育総務担当)

【参加者】

災害時には飲料水はもちろんですが、生活用水が必要であるとの記事が朝日新聞にありました。被災地では生活用水がないため、トイレに行っても手を洗わずに感染性の大腸炎が問題になったとのことです。平塚市の防災倉庫のろ過装置については、単なるろ過装置で滅菌まではできず、飲料水にはならないとのことを聞きました。今では、滅菌まで可能なろ過装置もあります。

また、避難所の運営、救援、安否確認のためにSAHANA（サハナ）という無償のソフトウェアがあるそうです。

滅菌可能なろ過装置とSAHANA（サハナ）の利用について検討してください。

担当課回答 (集会後、次のとおり担当課に確認をしました。)

情報提供ありがとうございます。

いただいた情報は、今後の防災対策の参考にさせていただきたいと考えます。

(事務担当は防災危機管理課危機管理担当)

7 市長によるまとめ

今日は皆様から様々な御意見をいただきました。すべてにお答えできなかったこともあり、お詫びを申し上げます。

この土屋地区が住みやすい地域になっていくことが一番重要だとお話を伺いました。少子高齢化、後継者、道路、安心安全、教育、市街化の遅れなどの課題への対策、また地域への魅力付けの対策を行わないと大変なことになるということを伺い、今日、私は実現に向けた取り組みが必要であるということを感じました。

私は土屋地区を市内でも重要な場所であると捉えています。今日は土屋地区のまちづくり、人づくり、教育、自然の大切さも身に染みて感じさせていただきましたので、今後も連合自治会の皆様や地域の皆様と一緒に取り組んでいき、土屋地区で皆様が夢を持てるような行政施策を進めていきたいと考えます。今日は本当にありがとうございました。

アンケート結果報告

【回答数 28件（参加者 16件 傍聴者 12件）】

参加者・傍聴者について

年齢

20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上
0名	10名	4名	2名	9名	3名

性別

男性	14名
女性	11名
回答なし	3名

質問1 今回の「ほっとミーティング」の開催はどこでお知りになりましたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
広報ひらつか	4名	1名	5名
ポスターやチラシ	0名	2名	2名
町内会など地域から	9名	1名	10名
市ホームページ	2名	2名	4名
その他	1名	6名	7名
回答なし	0名	0名	0名

質問2 市長との対話はいかがでしたか。

回答

	参加者	傍聴者	計
よかった	8名	7名	15名
まあよかった	6名	3名	9名
どちらともいえない	1名	0名	1名
あまりよくなかった	0名	0名	0名
よくなかった	0名	1名	1名
回答なし	1名	1名	2名

質問 3 質問 2 であまりよくなかった、よくなかったと答えた方について、市長との対話でよくなかった点はどのような点ですか。

回答 ・対話の時間が短かった。

質問 4 御自身の考えや思いは伝わりましたか。(参加者対象)

回答

伝わった	4名
まあ伝わった	7名
どちらともいえない	1名
あまり伝わらなかった	0名
伝わらなかった	1名
回答なし	3名

質問 5 質問 4 であまり伝わらなかった、伝わらなかったと答えた方について、御自身の考えや思いについて、伝わらなかった点はどのような点ですか。(参加者対象)

回答 ・なし

質問 6 対話集会について、御感想や運営への御提案はありますか。

回答

- ・対話のテーマが多過ぎる、テーマを絞ってほしい。
- ・継続して開催してほしい。
- ・市長が目線を合わせ、回答してくれて嬉しかった。
- ・具体的な回答がほしかった。
- ・緊張、不安もあったが、発言しやすく温かい雰囲気だった。
- ・子どもたちが残ってくれるような土屋地区にしたい。
- ・市長さんの考えを直接聞いて良かったです。
- ・子どもの将来についての市長の考えを具体的に聞いて感謝しています。
- ・地域の皆様の意見も聞いて、参考になりました。
- ・今までにない機会に参加できてよかったです。
- ・事務的な回答でなく、市長の率直な意見を聞いてよかったです。
- ・市政に少し興味を持てるようになりました。
- ・安心して子育てができるまちになってほしいです。
- ・まちづくりに参加できることを実感しました。
- ・土屋幼稚園のお話できて少し安心しました。
- ・幼稚園を含む教育、また交通の改善を期待しています。
- ・特定の参加者が多かった。